

佐生修郎(さしゅう・しゅうろう)は就労ビザ専門会社で働くコンサルタント。その幅広い知識と長年の現場経験、それに深い洞察に基づきさまざまなアドバイスを行い、数々の困りごとを解決してきた。座右の銘は「真面目に不真面目」。

鈴木一郎 大変だ、大変だ。「211ビジネスビザ」の申請書類が昨日の「午後」に整い、申請入力しけれど、実行出来なかったのだから。今年のMVPの栗原君が商談で一日も早く来いしたいって息巻いているのに。急がなくなっちゃ。

佐生修郎 「午後」では駄目だよ。申請受付クォータが「0(ゼロ)」になってしまっているからね。

鈴木 「クォータ」って割り当てのことだよ。

佐生 イミグレ総局の申請受付システム「VISA ONLINE」では、ビザ申請受付の総数を制限している。現在は1日あたり1200件。そのうち、211ビジネスビザは700件。317家族帯同ビザには500件がクォータとして設定されている。

鈴木 じゃあ、隣の赤い大国を含む全世界の申請者がその700件のパイを取り合う仕組みになっているってこと？

佐生 争奪戦だ。毎日8時に申請システムが稼働開始。実績ベースで言うと、先日、11月27日は9時6分にゼロになった。つまりそれ以降は申請が出来ない。初期画面で受付可能な残り件数が見られ

申請受付クォータって何よ？

鈴木 とところで、317家族帯同ビザも同じような状況なの？

佐生 それには余裕がある。午後3時でも400件くらいは残り件数があるから、焦らなくてもいつでも申請が可能だ。

鈴木 そんな状態だったら317家族帯同ビザの割り当て数を下げて、その分211ビジネスビザのクォータを増やしてくれば良いのに。

佐生 そうだよ。当局に働きかけてはいるのだが回答が無いのだ。日本だったらもう少し柔軟かつ機動的にクォータの変更に対応してくれるのかもねえ。いや、そもそもクォータ制にしないかな。

鈴木 312就労ビザの方はどうなのさ？労働省のシステム「TKA ONLINE」を使って申請をするのだよ。

佐生 申請受付クォータの表示はない。でも、当局内のバックログ(処理待ち件数)を200件としている。10件の処理が完了したらその時点で新しい10件の申請を受け付けていうやり方だ。

鈴木 ええっ、その仕組みでは完了のタイミンがわからない限り、いつ新しい申請を受け付けてくれるのかわからないじゃないか。

佐生 そう。当局から完了の連絡は来ない。だから申請者は、毎時パソコンにかじりついて申請が受け付けられるか、データ投入を試行し続けなければならぬ。

鈴木 うわっ、非効率だし理不尽極まりないねえ。申請の実現場は大変だよ。

佐生 今は「法務人権大臣令第26号」の影響で新しい312就労ビザを取り直す人が多いから、労働省に

佐生修郎 心得えの条

一 ビザ発給が再開され、全世界から申請が殺到している。それに対して当局は申請受付クォータで処理件数を制限している。狭き門で申請が受理された後に書類審査で否認されないよう、申請書類の準備には今まで以上に注意を払うべし。

二 所要時間が余計にかかることを認識して入国タイミンを設定すること。

「修郎先生の事件簿」は、原則、毎月第1水曜に掲載します。

こいけ・ゆういち FPCインドネシア代表取締役。89年学習院大卒、日本アイ・ピー・エム入社。フジスタツフへ転職後インドネシアでの事業開発を手掛ける。帰国後に独立。「夢ある街のたいやき屋さん」FC経営を経て、12年8月より現職。栃木県生まれ。54歳。

※本連載は、実際に起きた事例を参考に、インドネシアに滞在、就労する上で気を付ける点について説明するもので、登場人物や事象はフィクションです。実際の事案に対応する場合は、専門家に相談の上、各自のご判断でご検討ください。

修郎先生の事件簿

～就労ビザ専門会社の現場から～



小池雄一